

JENESYS2017 招へいプログラム第7陣の記録

対象国：タイ

テーマ：（技術）科学技術交流

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」の一環として、タイより高校生・職業学校生30名が2017年10月31日～11月7日の日程で来日し、「科学技術交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、日本理解講義にて日本の歴史、文化、経済、技術を背景とした現在の日本を学びました。兵庫県では、神戸市立工業高等専門学校を訪問し工業技術や製造技術に関する日本の学校教育、カリキュラムとその設備を体験しました。また、ホームステイや茶道体験、姫路城視察を通じ、日本の歴史と生活様式への理解を深めました。

また、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

タイ 30名

【訪問地】

東京都、兵庫県

2. 日程

10月31日(火)	来日 【オリエンテーション】
11月1日(水)	【日本理解講義／基調講演】 都内から兵庫県へ移動
11月2日(木)	【学校交流】神戸市立工業高等専門学校 【ホームステイ対面式】
11月3日(金)	【ホームステイ】
11月4日(土)	【地域の人々との交流会】
11月5日(日)	【歴史的建造物等視察】姫路城 【文化体験】姫路城西御屋敷跡庭園「好古園」茶道 【ワークショップ】
11月6日(月)	地方から都内へ移動 【最先端技術視察】日本科学未来館 【報告会】
11月7日(火)	【文化体験】秋葉原 離日

3. プログラム記録写真



11/1 【日本理解講義／基調講演】



11/2 【学校交流】神戸市立工業高等専門学校



11/2 【学校交流】神戸市立工業高等専門学校



11/3 【ホームステイ】



11/4 【地域の人々との交流会】



11/5 【ワークショップ】



11/5 【文化体験】姫路城西御屋敷跡庭園「好古園」茶道



11/6 【報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ タイ 高校生

基調講義から日本の技術力や全体のことについて学んだことで、実際の場所に行ったときに理解しやすくなりました。神戸市立工業高等専門学校は、これまで見た中で最も優れた学校の一つだと思いました。学内の機材は全て学生がすぐに利用できるよう整備されていて、他の学校よりも学習環境が優れていると思いました。

ホームステイでは日本人の生活様式や文化を学ぶことができました。今回で三度目の来日でしたが、また是非日本に戻って来たいと思える経験でした。

◆ タイ 高校生

学校交流では、日本の新しい技術を体験し、工学、化学、英語、剣道などの授業は、タイでは学ぶことができないことを学ぶことが出来ました。この経験をタイで活かしたいと思います。ホームステイでは様々な文化体験をすることができて感動しました。また、日本の家族との絆を深めることが出来ました。

日本では時間を守ることは重要なことで、生活習慣を変えていくことの重要性など、多くのことを学ぶことができました。

◆ タイ 高校生

日本に関する講義やホストファミリーとの話から、日本の現在の課題や生活について知ることができました。日本はタイと似ている部分はありますが、制度については大きな違いがあることが分かりました。神戸市立工業高等専門学校は、実験室がたくさんあり、実験器具も整っていました。また、先生方はとても面倒見が良かったです。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流担当者

本校に到着されて最初のうちは、生徒の皆さんが緊張した表情をされていましたが、プログラムの進行とともに、本校の学生や先生との会話を行うようになり、午前のプログラムではリラックスして交流を楽しんでおられるようでした。食事も本校の学生や先生といっしょにとっていただき、食器の片付けまでしていただきました。午前・午後のプログラムのいずれにおいても、グループ行動をしながら、あちらこちらで写真の撮影をされていました。最後のセレモニーでは、タイ式武術のパフォーマンスを見せていただきました。

◆ 学校交流参加学生

タイの学生との英語力の差を感じました。そのため、言語面でなかなか通じ合えない場面がありました。しかし、身振り手振りや、絵を描くことにより通じ合えることもあり、積極的に接していくことが一番大事だと改めて感じさせられました。海外からの学生と接する機会はめったに無いため、今回の体験はたいへん貴重なものだったと思います。

◆ 学校交流参加学生

工業英語の授業で英語によるコミュニケーションを目的として、材料研究室では金属の弓張り試験を紹介しました。タイの学生の方々は高校2年生でありながら、しっかりと理解しているように感じました。また、研究室にある機械やFRPなどの材料、引張り試験の様子にもものすごく興味を持ち、たくさん写真や動画に収めてくれました。交流を終えて思ったのは、いかに簡単に分かりやすく相手に伝えることができるかを考えコミュニケーションをとることです。この経験を今後に活かしていきたいです。

6. 参加者の対外発信

	
<p>ホームステイについての発信 (Facebook) たった3日の滞在だったが、家族のみんなは私を楽しませ、とても幸せな気分になってくれました。日本での良い思い出です。全てに感謝しています。一生忘れません、また会いましょう。</p>	<p>学校交流についての発信 (Facebook) 今日は神戸市立工業高等専門学校を訪問。とても楽しく面白そうなものが沢山！</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表


<p>アクション・プランの発表 今回プログラムに参加したグループ（学校）がそれぞれ日本についての広報活動を行う。 広報活動方法：1) キャンペーンを実施（キャンプや講義） 2) E-Book を利用し情報発信 3) SNS を利用した日本に関する情報の普及活動</p>